

香美市
製材業現況調査

報告書

平成30年1月

目次

1.	製材所ヒアリング調査	
	香美市 製材 MAP	1
1-1	美良布木材 株式会社	2
1-2	北村製材所	4
1-3	有限会社 山崎製材所	6
1-4	有限会社 丸桧	8
2.	香美市製材の調査・雑感	10
3.	香美市製材業関係 年表	11

製材所ヒアリング調査

香美市 製材 MAP



■香美市内製材所 調査シート

調査日 2017年 12月25日
 調査員 森本(森組)、笹岡、山本

調査対象

会社名 美良布木材(株) 社長 横谷和泰(82歳) 担当 社長
 住所 香北町小川156 電話 0887-59-2031 FAX 0887-59-4482

A: 沿革

	原木調達先	製品	数量	販売先	社長	従業員数	備考
創業期	山を買って伐り出し	—	—	—	横谷柳次		創業年不明
					↓		現社長は
					正種		S26年より勤務
							美良布地区に5軒
							製材業者がいた
最盛期 S30~50	山を買って伐り出し	角にすれば売れる		大工(10人以上)	和泰さん	最大12,3人	山に4,5人
				高知木材(葛島)			桧 1.5万/石
		バタ角、3寸角		土木用			杉 0.8万/石
							杉小丸4.2万/m ³
	高知木材(葛島)	柱は製品を買う					
現在 H19~	森連市場 物部・香美	—	—	大工(2人)	和泰さん	2人	景気が悪いのは
	おおとよ・奈半利			土木			ここ10年位
				小売り			1戸建ての注文が
							ない

B: 現在の工場設備

台車、テーブル、帯鋸φ700まで
 市場に5・6回/月行くので、稼働は月20日程度

C: 香美IngWoodに 対する意見・要望

感想: ありがたい。
 実績: M工務店2件+2・3件
 意見: 乾燥機については黒岩工業の先代社長が言っていたができなかった。
 天然乾燥では間に合わない。佐川(吾川森林)まで持っていった。

D: 将来計画・後継者の有無

地元製材業者は高齢化しているが流域でまとまるというのは難しい。
 社長が抜けなくなったら、仲介だけになりそのあとは潰すしかない。

E: その他

地元の建物には地元の木を使わないとおかしい。
 補助金について、まだ知らない人がいるので広報が必要だと思う。



製材の様子

ヒアリングの様子



■香美市内製材所 調査シート

調査日 2017年 12月25日
 調査員 森本(森組)、笹岡、山本

調査対象

会社名 北村製材所 社長 北村政数(69歳) 担当 社長
 住所 物部町大栃2300-1 電話 0887-58-4114 FAX 0887-568-4116

A:沿革

	原木調達先	製品	数量	販売先	社長	従業員数	備考
創業期 S30年台	営林署(別府)	トガ	—	大工	先代	4・5人	当初は
		柱・土台		高知の市場			移動製材
		モミ		淡路→			S45年より勤務
		平角		トガ4面無地			
					政数さん		以前は高知の
					23才~		吉野川木材に勤務
最盛期 S40年代	吉野川木材	桧/柱	—	大工		5人	+社長と奥さん
		柱は製品を買う					
		杉赤/土台					工事費1000の内
							300が木台だった
							不渡200万に合う
現在	物部ストックヤード	杉	—	大工(10人)		2人	+1人
		桧					60才と68才
							材木代は1割
							10万/坪(設備除く)
							挽き賃 1万/m ³

B:現在の工場設備

軽便台車φ900, L10mまで
 施業は15時まで 土日休み

C:香美IngWoodに対する意見・要望

感想:ありがたい。
 実績:森本建築、木浦工務店、福留建築に実績がある。普通の大工で申請書類が対応できない。
 意見:乾燥機を構えても荷物がまとまらなると高くつく。胴縁、間柱は天然でも乾く。
 平角は100%乾かない。期間が欲しい。

D:将来計画・後継者の有無

後継者はいない。大栃に活気がないからしかたがない。

E:その他

木材の価値のわかるお客さんにいいものを提供したい。枝打ち材が最近で出したが使い道がない。
 物部に大工は4・5人いるが、新築はほとんどない。
 小径木はチップに行ってしまうので丸太足場が取れない。
 庁舎の建築の時に置場を構えたが、管理に人手が必要で大変だった。



製材の様子

ヒアリングの様子



■香美市内製材所 調査シート

調査日 2018年 1月12日
 調査員 森本(森組)、笹岡、楠瀬

調査対象

会社名 有限会社 山崎製材所 社長 山崎光教 (S25生まれ) 担当 社長
 住所 物部町大柵1597 電話 0887-58-2260 FAX 0887-58-2013

A: 沿革

	原木調達先	製品	数量	販売先	社長	従業員数	備考
創業期 S33頃	7~ 8割が国有林	杉	月70m ³	—	祖父	10~ 20人	法人化は約60年前
			原木で		↓		創業自体は戦前か?
			年1000m ³		父		現社長は3代目
					↓		約30年前に就任
					光教さん		1回1000万買って
最盛期 S60~H 1		杉/柱	月100m ³	肥後木材(九州)	光教さん	最大15, 6人	肥後木材はS55, 6から
			原木で	土佐木材		機械化後	20台/年、250万/台
			年1200m ³			7~ 8人	当時は皆九州向け
							肥後木材: 県内が半々
							阪神大震災後、製品 価格だけ下がった
現在	おおとよ	杉	年500m ³	大洋木材	光教さん	2人	+社長・奥さん
	森連の市場			香美市内の大工			70代と50代の従業員
							ほぼ県内向け
	補助金のときは香美						工務店相手はない
							おおとよは対応が 早い

B: 現在の工場設備

C: 香美IngWoodに 対する意見・要望

感想: 公平かどうか疑問。

実績: 福留さんの物件

意見: 設計士と結びついていないと大工一人では申請が煩わしくてできない。

乾燥は佐川(仁淀川林産協同組合)やレイホク木材工業協同組合に頼む。

D: 将来計画・後継者の有無

以前は黒岩がまとめ役だったが、いまは3社で動く馬力がない。

2000万の乾燥機を買うより、その分の木を天然乾燥したい。

E: その他

阪神大震災後、木造の評価が下がった。そのときに辞めようかと思ったが辛抱してきた。

木には一本一本に合った曳き方があるが、売れないのでその通りには行かない。

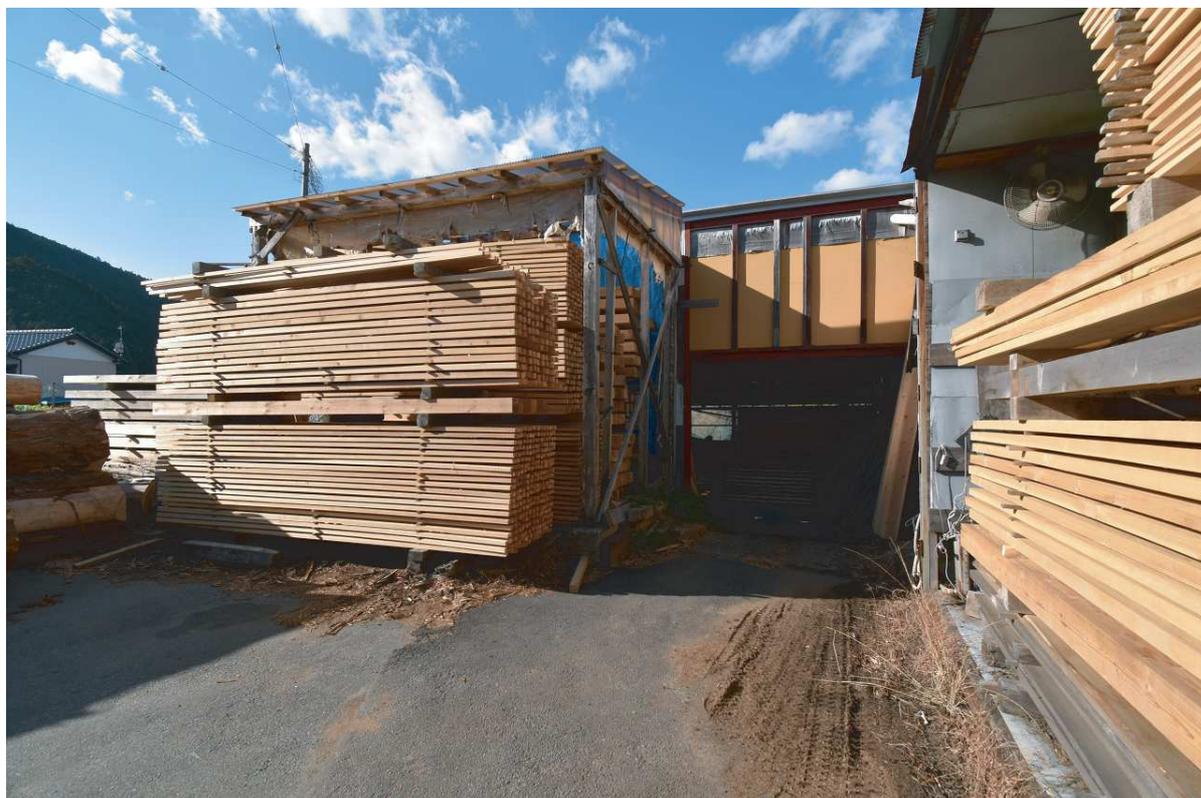
必要とする家がないので、天井板にしたい材が、不本意にテーブルになったりする。

一人大工が多くまとまりがない。ひとつになって動くべき。



ヒアリングの様子

天然乾燥の様子



■香美市内製材所 調査シート

調査日 2018年 1月12日
 調査員 森本(森組)、笹岡、楠瀬

調査対象

会社名 有限会社 丸桧 社長 小野博(60歳?) 担当 社長
 住所 土佐山田町佐野71番地 電話 0887-57-6040 FAX 0887-57-6044

A: 沿革

	原木調達先	製品	数量	販売先	社長	従業員数	備考
創業期 H14	安芸の土場、仁井田、	桧のみ/	600m ³	土佐木材	小野博	3人	+社長
	林材、岡山(津山の	柱・造作	(原木で	中央木材センター			25歳~ソ ネダ木材に
	カワシマさん)など	建具材	1000m ³)				10年勤務35歳独立
	色々なところから						創業以前は大豊で
							3年間共同経営
							機械は吉野川木材か
							ら購入、工場は居抜
							当初から日高専務と
							二人三脚、社長+奥
							さん・専務+奥さん
最盛期 (創業期)							売値 30万/m ³
							年商 1億2000万
現在		桧のみ/	600m ³	市場	小野博	5人	+社長
		柱・造作	(原木で	大工(木浦のみ)			最年少は30歳未満
		建具材	1000m ³)				年商 7~8000万
							売値 17万/m ³

B: 現在の工場設備

製材工場1棟、製品倉庫4棟、事務所、道場 ※車庫を新築予定
 中温乾燥機1台(65℃、7mまで)、台車2台、オートテーブル、カッターバーカー、フォークリフト、4tトラック

C: 香美IngWoodに 対する意見・要望

感想: 役物メイン、並材を挽いてないのであまり興味がない。
 実績: ー
 意見: 使い方など、もっと木をアピールをしてほしい。

D: 将来計画・後継者の有無

製品の差別化に力を入れてきた。これまで赤字はない。悪くなっていくと思うが、先は見通せない。
 息子(30歳くらい?)が10年ほど働いていたが少し前に辞めた。

E: その他

木に対する文化が廃れてきた。まとまったPR(白鵬のCMのような)と人の育成が必要。
 桧は高いイメージだが、実際はそうでもない。高齢樹ほど持ちが良いことが認識されていない。
 創業時は県外7割・県内3割、現在は半半。
 へんろ石饅頭の建物は、20万/m³で清水産業から買った。清水・住友の山に良い木がたくさんある。
 人前で話すのは得意ではないが、昨年からはFBでの周知をはじめた。



ヒアリングの様子

乾燥機の様子



香美市製材の調査・雑感

<現在の製材所数・4社をどう見るか>

- ・平成の初年に県内製材所の数は「200超」。それが約30年後の現在「100を切った」といわれています。
全国で進む製材所の大型化と中小の衰退、廃業。高知県も香美市も例外ではありません。
香美市の場合、上流域の物部町に2社、中流域の香北町と土佐山田町に各1社の計4社。
よく踏みとどまっている！とも言えます。

<後継者がいない>

- ・4社のうち3社が、「経営を担う後継者がいない。自分の代で店仕舞い」としています。
また、残るヒノキに特化した製材も「先の営業見通しが立たない」としており、市内製材をとりまく環境は、厳しさを増すばかりです。

<香美 Ing Wood を歓迎>

- ・ヒノキ特化の製材を除く3社は、受注があり新しい制度を歓迎しています。が、一層の受注増を目指す取り組み（例えば乾燥機の設置）にはつながっていません。
また、これまで流域製材のリーダー役をつとめてきた「黒岩工業」が製材分野から撤退したことから、まとめ役が不在となり、新しい先導役も現れていません。

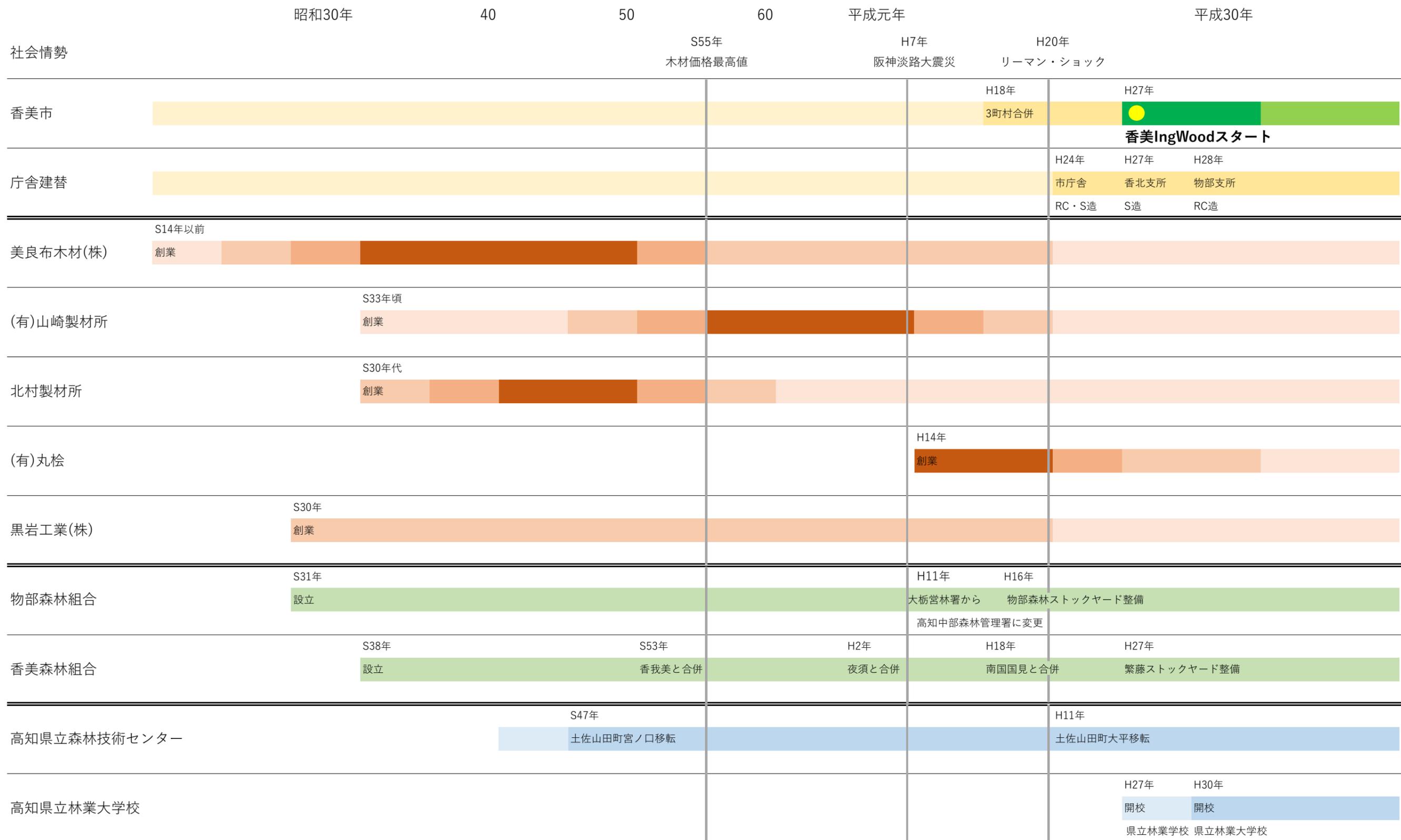
<一定復活した「流域の家づくり」>

- ・流域3社の制度活用例は、市内工務店及び独り親方（棟梁）との連携によるものです。
活用例が伸びた要因は、制度活用に積極的な「施工側」の努力（＝煩雑な書類提出）によるところが大きいと感じます。更に言えば、（天然乾燥が主軸の）施工側にとって、市内製材は不可欠の存在で、その製材側に後継者がいないことに不安を抱いています。

<市産材活用住宅を増やすために>

- ・一方、（安価な？）市外産木材を使ってきた市内施工業者は、未だ制度活用に踏み込まない現実があります。また活用の業者も「仕事をこなすのにもう筒一杯」との発言もあり、香美の木を活かす家づくりの拡大は、予断を許しません。また、職人側の後継者も極めて少ない現状があります。
このため、<製材・施工>ともに<後継者発掘とリーダー発現>が、今後の流域の家づくりを拡大する喫緊の課題であり、<具体的な取り組み>が待たれます。

■香美市 製材業関係 年表



調査・報告

香美森林組合
良材ネットワーク

平成30年1月